

実践哲学研究

第20号記念号

ベンサムの(もう一つの)科学主義……………	安彦 一恵 (1)
オランダの安楽死問題……………	長岡 成夫 (19)
— 要請なしの生命終焉行為 —	
KIERKEGAARD AND MEIJI ERA……………	榊形 公也 (37)
ラカンの《第二の死》の概念について……………	伊藤 正博 (51)
多元文化論のための若干の基礎的思弁的考察……………	藤野 寛 (71)
— M. ウォルツァーに稽古をつけてもらって足腰を鍛えよう —	
二つ目の倫理は存在するか……………	佐藤 義之 (93)
— 「ケアの倫理」とレヴィナスの「顔」 —	
ヘーゲル言語論と有機体的言語観……………	板井孝一郎 (117)
— J. G. ヘルダーとの関係を中心に —	
完全義務と不完全義務……………	加藤 尚武 (137)
「実践哲学研究」既刊目録……………	(143)
彙報……………	(149)

京都大学文学部倫理学研究室内
実践哲学研究会

实践哲学研究

第20号記念号

「実践哲学研究」

既刊目録(1-19号)

創刊号(1978)

1. 刊行に寄せて 森口 美都男
2. ベルン時代におけるヘーゲルの「自由」概念 安彦 一恵
3. 現代哲学における課題と方法 柴田 秀
4. divertissement を超えるもの 大町 公
— パスカルの概念を手がかりとして —

第2号(1979)

1. 功利主義における行為の結果 長岡 成夫
2. シモーヌ・ヴェイユにおける「注意」 榎本 百合子
— 「神への暗黙裡の愛の諸形態」を中心にして —

第3・4号(1981)

1. オルテガの倫理学 大町 公
2. 言葉と倫理 榊形 公也
— ケルケゴールの言語観を手がかりにして —
3. 死と超越 松島 哲久
— 身体において、死と再生はいかなることとして了解されるか —
4. カントの「尊敬の感情」について 佐別当 義博
5. 趣味について 西村 誠
— 『判断力批判』第22節の選言を巡る考察 —
6. BONHÖFFER UND UNSERE ZEIT 柴田 秀
— Die Überwindung der Religiosität bei Bonhöffer —

「実践哲学研究」既刊目録(1-19号)

第5号(1982)

1. ポール・リクール『意志の哲学』における方法の問題.....伊藤 正博
2. プラグマチズムと最高善.....高見 保則
— パースの後期哲学をめぐって —
3. カントに於る実践哲学の位置.....北尾 宏之
— 自由論を手掛かりにして —

第6号(1983)

1. 悔悟と人格.....水谷 雅彦
— シェーラー倫理学における情緒的なるものの位置 —
2. ヘーゲル青年期に於ける宗教そして国家・歴史をめぐる
思惟の展開について.....平石 隆敏
3. ON JOHN RAWLS'S TWO PRINCIPLES OF JUSTICE.....戸谷 良二
— Their theoretical development —

第7号(1984)

1. 信と言語.....松島 哲久
— 倫理学の新たな可能性 —
2. いかなる意味においてソクラテスを
キルケゴールはたたえるのか.....藤野 寛
3. カントの「知覚論」の基にあるものもしくは
すべての表象の実在性に関する第一の源泉.....前田 義郎

第8号(1985)

1. 言語ゲーム.....高見 保則
2. 夢形成のメカニズム.....田村 公江
— 『夢判断』を読む —
3. 魂の「身体からの独立」と「現実との接触」.....本田 裕志
— 『物質と記憶』におけるベルクソンの心-身関係論 —

「実践哲学研究」既刊目録(1-19号)

第9号(1986)

1. 近代自然法思想における「社会」と「自由」.....平石 隆敏
— Th. ホッブズの場合 —
2. 物、時間、場所の同、及び、異に関する諸規則.....前田 義郎
— 事件の可能性の源泉について —
3. 「探究の目的」と規範学.....渡辺 啓真
— C. S. パースにおけるプラグマティズムの一掃結 —

第10号(1987)

1. 実存という問題.....藤野 寛
2. フロイトの性欲理論.....田村 公江
— ヒステリー病因論をめぐって —
3. フッサールにおける、自我、人間、世界.....柳澤 有吾
— 『イデー』をめぐって —

第11号(1988)

1. スピノザの国家論について.....本田 裕志
2. ベルクソンにおける、持続と知性.....亀喜 信
3. 知覚における事実性の問題.....佐藤 義之
— メルロ・ポンティ後期哲学を中心に —

第12号(1989)

1. 形相と言葉.....古田 裕清
— ハイデガーの formale Anzeige についての考察 —
2. 美感的判断力の原理に関する困惑について.....八幡 英幸
3. 個体と体験.....渡辺 啓真
— ホワイトヘッドの「改変された主観主義」 —

「実践哲学研究」既刊目録(1-19号)

第13号(1990)

1. 懐疑と自由 亀喜 信
— デカルトにおける知情意 —
2. ベルクソンに於ける生と記憶 山下 智志
3. 本質と存在の問題 松王 政浩
— ライプニッツ形而上学をめぐって —

第14号(1991)

1. 沈黙のヨハンネスはなぜ眠れないのか 江口 聡
— ケルケゴールの『恐れとおののき』における倫理的なものについて —
2. 善意志の自律 蔵田 伸雄

第15号(1992)

1. ダーウィンの自然選択説に関する二つの疑惑 内井 惣七
2. 相対の中の絶対 佐藤 義之
— 『見えるものと見えないもの』における「見えるもの」、知覚野、存在 —
3. 関心と哲学 白水 士郎
— カントの二律背反の解決をめぐって —

第16号(1993)

1. 「自然目的として見る」ことの文法 八幡 英幸
— カントの有機体論からの展望 —
2. 内部实在論と認識における価値 伊勢田 哲治
3. 自我論再考 松王 政浩
— 分断された経験論的自我をめぐって —

「実践哲学研究」既刊目録(1-19号)

第17号(1994)

1. ベルクソンにおける神秘主義の二つの意義 本田 裕志
2. 民族宗教と新しい神話 板井 孝一郎
— ヘーゲル生命論と宗教 —
3. 研究報告: 医療の倫理学
 - i. パターナリズムとインフォームド・コンセント 奥野 満里子
 - ii. 脳死臨調答申から「臓器移植法案」へ 伊勢田 哲治
 - iii. 安楽死問題 江口 聡
 - iv. 医療資源の配分の倫理 土屋 有紀

第18号(1995)

1. 定言命法と規則功利主義 蔵田 伸雄
2. パーフィットの人格および
人格同一性の議論について 奥野 満里子
3. 研究報告: 共同体主義とはなにか
 - i. 総論: 共同体主義とリベラリズムの論争 白水 士郎
伊勢田 哲治
 - ii. アトミズム 板井 孝一郎
 - iii. 徳と共同体 江口 聡
 - iv. 正と善 蔵田 伸雄
 - v. 文化多元論 藤野 寛
 - vi. フェミニズム 馬嶋 裕
 - vii. 共同体主義と医療倫理 奥野 満里子

第19号(1996)

1. 力と理性 白水 士郎
2. 信仰と体系知の相克 小林 亜津子
3. 「真理は主体性である」再考 江口 聡
4. Concept of Fitness 伊勢田 哲治

「実践哲学研究」既刊目録(1-19号)

増刊第1号(1994)

1. 哲学することへの反省 藤野 寛
2. 道徳の地盤 前田 義郎
— カント「道徳形而上学」の問題 —
3. 精神分析から見たエゴイズムの起源 田村 公江
— パラノイア的人格構造と攻撃性 —
4. 政治・生命・倫理 柳沢 有吾
— ドイツ刑法218条改正問題をめぐって —
5. ライプニッツの力学構造 松王 政浩
— 「原始的力」の根源性をめぐって —

彙報

1997年度倫理学講義題目

講義

教授 加藤尚武 倫理学概論

特殊講義

教授 加藤尚武 応用倫理学

助教授 水谷雅彦 情報と倫理

講師 鷲田清一 ヘテロロジーの諸問題

講師 塚田敬義 医事法の諸問題

講師 永井均 〈私〉の存在と倫理

演習

教授 加藤尚武 Hegel: *Phänomenologie des Geistes*

教授 加藤尚武 倫理学の諸問題

助教授 水谷雅彦

助教授 水谷雅彦 Franz Brentano: *Vom Ursprung sittlicher Erkenntnis*

助教授 水谷雅彦 Max Scheler: *Der Formalismus in der Ethik und die materiale Wertethik*

総合人間学部 有福孝岳 I. Kant: *Kritik der reinen Vernunft*
教授

総合人間学部 四日谷敬子 Heidegger: 全集 19 卷
教授

趣旨

われわれの社会が直面している現在の状況は、倫理学の重要性を日増しに痛感させるものである。しかしながら、ひとくちに倫理学といってもその対象は多岐にわたる。諸分野の共同なしには研究の進展はない。それゆえ、われわれ京都大学倫理学研究室大学院生は、みずからの研究を公にすることによって、広く諸姉兄の批判と判断を仰ぎ、各自の問題意識を深めると同時に相互の交流を図るべく、ここに『実践哲学研究』を発行する。

後記

1. 早いもので実践哲学研究会も今年で発足二十年となり、ここにお届けします『実践哲学研究』も20号を数えることとなりました。今号はこれを記念し、実践哲学研究会の発足以来、会の発展にご尽力下さいました諸先生方に広く執筆をお願いして「記念号」とする運びとなりました。幸いにも私たちの期待を越える数の原稿お寄せいただき、ご覧の通り質・量ともに充実した記念号とすることができました。お忙しい中、ご執筆の労を執って下さいました先生方に心よりお礼申し上げます。
2. 従来とは大きく体裁の異なる論集となりましたが、皆様のご感想をお聞かせ願えればと思います。掲載論文に関して、例年通り合評会を行う予定ですので奮ってご参加下さい。日時と場所につきましては、あらためてご連絡差し上げます。
3. 当会では賛助会員制度を設け、会誌の読者の皆様にご支援をお願いしております。例年多数の方々のご協力をいただき、誠にありがとうございます。当会では会誌の充実になお一層の努力を致す所存でございますので、今後とも何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

発行 実践哲学研究会

〒606 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部倫理学研究室内
郵便振替 01020-1-27560

発行日 1997年11月1日
特別定価 2100円(本体2000円)

事務局

京都大学大学院文学研究科哲学(倫理学)
大学院学生共同研究室

代表

加藤尚武

**STUDIEN
ZUR
PRAKTISCHEN PHILOSOPHIE
(JISSENTETSUGAKU-KENKYU)**

Nr. 20 November 1997

INHALT

Bentham's (Another) Scientism ABIKO Kazuyoshi (1)
Life-Terminating Acts Without Explicit Request of Patient:
 One Aspect of Medical Decisions
 concerning the End of Life in the Netherlands NAGAOKA Shigeo (19)
Kierkegaard and Meiji Era MASUGATA Kinya (37)
Esquisse du concept de «la seconde mort»
 dans la théorie lacanienne ITO Masahiro (51)
Einige grundlegende Spekulationen zum Multikulturalismus
 — ein Versuch, von Michael Walzer zu lernen FUJINO Hiroshi (71)
Is There a Second Morality?
 The Ethic of Care and Levinas' Concept of Face SATO Yoshiyuki (93)
Hegels Lehre von der Sprache
 und die Auffassung der organischen Sprache:
 In der Beziehung zu J. G. Herder ITAI Koichiro (117)
Perfect Duty and Imperfect Duty KATO Hisatake (137)
Gesamtinhaltsverzeichnis der bisherigen Jahrgänge (143)
Verschiedenes (149)

VERÖFFENTLICHT UND HERAUSGEGEBEN VON
DER GESELLSCHAFT FÜR STUDIEN ZUR PRAKTISCHEN
PHILOSOPHIE AN DER UNIVERSITÄT KYOTO
(KYOTO DAIGAKU JISSENTETSUGAKU-KENKYU-KAI)
KYOTO JAPAN